

< 運営推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人総合施設美吉野園	事業所名	美吉野ごゆるり園
所在地	(〒 638-0821) 奈良県吉野郡大淀町下湊 629 番地		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

在宅生活の継続と、退院後の最も不安な時期を全力で支え、1日でも長く住み慣れた家で暮らせるよう、リハビリを通じた体力作りや日々の細やかな体調管理に職員一丸となって取り組んでいます。ご家族の不安や苦労にも一歩踏み込んで寄り添い、お一人おひとりの『家で過ごしたい』という切実な想いを何よりも大切にしながら、最期までその人らしい生活を支えることに何より力を入れています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	___ 8 年 ___ 4 月 ___ 13 日	従業者等自己評価 実施人数	(___ 9 ___) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------------	------------------	-----------------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	___ 8 年 ___ 4 月 ___ 17 日	出席人数 (合計)	(___ 7 ___) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (4人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (0人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (0人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1人) <input type="checkbox"/> 利用者 (1人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (___ 人) <input type="checkbox"/> その他 (___ 人) 欠席 1 名(公務のため)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>経営理念に基づき、「ただいまが続く毎日」というスローガンを掲げ、全職員で①医療ニーズの方の受け入れ②在宅での看取り支援③生活機能の維持回復④家族の負担軽減⑤地域包括ケアへの貢献にむけて努力する。</p>	<p>具体的な取り組みとして、まず病院の退院調整部署と密に連携を図ることで、医療依存度が高い方でも退院直後からスムーズに在宅生活へ移行できるよう支援を行っています。在宅での看取り支援においては、早い段階から本人や家族の意向を丁寧に確認するアドバンスケアプランニングを実施し、最期までその人らしい尊厳ある生活を送れるよう意思決定を支えました。急な状態変化に対しても、看護と介護が一体となって迅速に対応し、家族の不安を和らげるための精神的なサポートも継続的に提供しています。生活機能の維持回復については、理学療法士による専門的なリハビリに加え、日々の暮らしそのものをリハビリと捉えた生活リハビリにも注力し、本人の持てる能力を最大限に活かした自立支援に努めました。また、家族の負担軽減を重要な役割と考え、介護疲れや急な事情にも柔軟に対応できるよう、通いや宿泊サービスの急な切り替えを可能にする体制を整えています。日々の丁寧な相談対応を通じて家族</p>	<p>新規の受け入れについては、病院との連携を確実に実施し、退院当日からスムーズにサービスを開始できる事例が増加しています。看取り支援においても、アドバンス・ケア・プランニングの定着により、本人や家族の意向に沿った最期見据え生活を支えています。生活機能の維持回復の面では、理学療法士と介護職員の役割分担が明確になり、日常生活の中でのリハビリ意識が向上しています。また、家族の負担軽減についても、緊急時の宿泊対応などを柔軟に行ったことで、家族の安心感につながっているという評価をいただいております。今後の課題としては、重症度の高い利用者が増える中での職員のスキルアップや、地域包括ケアへのさらなる貢献を目指した近隣住民との交流機会の確保が挙げられます。次年度に向けては、これらの課題解決に取り組みながら、より質の高い「ただいまが続く毎日」を提供できるよう努めてまいります。</p>

			の孤立を防ぎ、地域全体で家庭での介護を継続できる環境づくりに尽力しました。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<p>病歴や経過等を把握することで、利用者のこれまでの生活への理解と、これからの目標や、ご利用者本人の声にならない声や表情、仕草などから意志をひもとき、満足度や達成感に繋げる支援をおこなう。</p> <p>在宅生活が一日でも安定して過ごせるようご家族様ともに、意向を取り入れた介護計画を作成する。</p> <p>スタッフの対応・言葉遣い等の接遇を更に向上していく。</p>	<p>利用者の病歴やこれまでの歩みを深く把握し、日々の表情や仕草から言葉にならない思いを汲み取ることで、本人の意欲や達成感につながる個別ケアを実践しました。介護計画の作成においては、本人と家族の意向を丁寧に反映させ、住み慣れた家での生活を一日でも長く安定して継続できる具体的な支援体制を整えています。</p> <p>接遇面では、スタッフ一人ひとりが言葉遣いや立ち振る舞いを定期的に振り返り、利用者や家族に敬意を持った丁寧な対応を徹底しました。相談しやすい雰囲気づくりに努めることで、サービス全体の質と信頼性の向上を図っています。</p>	<p>利用者の生活歴や病歴を詳細に把握することで、表情や仕草から本音を汲み取る関わりを実践し、本人の達成感や満足度に繋がる個別支援を実現できました。介護計画においても、家族の意向を柔軟に取り入れながら、在宅生活の安定に向けた具体的な方針を共有できています。</p> <p>接遇面では、スタッフ間の振り返りを通じて言葉遣いや態度の再確認を行い、利用者や家族との信頼関係を深める丁寧な対応が定着しました。これらの取り組みにより、事業所全体でサービスの質が高まり、概ね計画通りに進捗しています。</p>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<p>本人様、ご家族、介護・看護スタッフ、医師や地域の方々など本人様に関わる全ての関係機関や多職種で、「住み慣れた自宅や地域での暮らしを最期まで継続して頂く」という思いで連携を強化していく</p> <p>介護職員、看護職員の垣根を超えた連携</p>	<p>住み慣れた自宅や地域での暮らしを最期まで支え続けるため、主治医や関係機関との情報共有を密に行い、多職種が一体となった支援ネットワークの強化に努めました。</p> <p>特に事業所内においては、看護職員と介護職員がそれぞれの専門性を活かしつつ、職</p>	<p>多職種連携の強化により、医療的ケアが必要な場面や急な状態変化に対しても、関係機関と迅速に連携して在宅生活を維持できる事例が増えています。事業所内での看護と介護の連携も円滑に進んでおり、情報共有の徹底が利用者の安心感や生活の安定に</p>

		に努め、どんな情報も共有し生活の安定に努める。	種の垣根を超えて利用者の状態変化や日々の様子をリアルタイムに共有できる体制を構築しました。些細な情報も漏らさず共有し合うことで、利用者の生活実態に即した迅速な判断と、切れ目のない安定したケアを提供しています。	大きく寄与しました。スタッフ全員が同じ方向を向いて支援に当たることができており、計画は順調に進捗しています。今後もさらに連携の質を高め、地域全体で最期まで支え切る体制を盤石にしていきます。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	住み慣れた地域での生活は事業所だけではなく、ご家族やご近所、友人の方々も関わることで本人様のこれまで培ってこられた関係や暮らしを支えることに繋がると考える。また、民生委員や地域の資源を活用する。 地域包括ケアシステム的一端として、地域住民向けの積極的な啓発活動をおこなう。	住み慣れた地域での暮らしを支えるためには、ご家族や近隣の方々との繋がりが不可欠であると考え、利用者様がこれまで築いてこられた人間関係を維持できるような関わりを模索しました。民生委員などの地域資源との連携を視野に入れ、事業所が孤立せず地域の一部として機能することを目指しています。	地域住民の方々や近隣との直接的な関わりについては、依然として希薄な面があることが課題として浮き彫りになりました。啓発活動についても、事業所の存在を広く知っていただく段階に留まっており、友人や近隣住民を巻き込んだ深い交流には至っていません。今後は、地域行事への積極的な参加や事業所を開放した交流機会の創出など、物理的な距離を縮める具体的な施策を強化し、地域に根ざした信頼関係の再構築に注力する必要があります。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		施設内外の研修に積極的に参加し、リスクマネジメントやヒヤリハット(インシデント)を積極的に記録に残し、予防的な対応を意識的に行うようにする。また看取りや医療的ケアへの研修、事例検討会を行うなどサービスの質の向上に繋がっていく。 在宅生活を継続する中での思いに寄り添い安心感につながるケアを実施する。	職員の専門性向上と安全管理を両立させるため、施設内外の研修へ積極的に参加しました。特に看取り支援については外部研修で得た知見を他の職員へフィードバックし、組織全体で終末期ケアの視点を共有しています。また、医療的ケアの質を高めるため、利用者の現病歴に基づいた勉強会を月1回の頻度で継続的に実施しました。安全面ではヒヤリハットの記録を徹底し、事	外部研修のフィードバック講習や医療研修を定例化したことで、スタッフの疾患理解と看取りに対する意識が向上し、サービスの質の底上げに繋がっています。ヒヤリハットや気づきカードの記録も定着し、共有された事例を日々の業務に活かす姿勢が見られるようになりました。

		象の背景にあるリスクを分析することで、 事故の未然防止に向けた予防的な対応を意 識したケアを実践しています。	
--	--	--	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		利用者・家族の状況に応じ、柔軟なサービス調整を行っている。急な泊まり利用や状態変化時にも対応できる体制づくりに努めている。運営推進会議にて事業運営状況の報告を行った。	地域との連携を継続し、災害時対応や情報共有体制の強化に努める。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	医療ニーズの高い利用者に対し、看護・介護が連携しながら支援を行っている。利用者の状態変化時には、多職種間で情報共有し迅速な対応に努めている。	継続して多職種連携を図り、利用者・家族が安心して在宅生活を継続できる支援を行う。

	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>主治医、訪問看護、福祉用具事業所、地域包括支援センター等と連携し支援を行っている。必要時にはサービス担当者会議を開催し情報共有に努めている。</p>	<p>関係機関との連携を継続し、円滑な支援体制の維持に努める。</p>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<p>地域との関わりを持ちながら事業運営を行っているが、地域交流機会については更なる充実が課題である。</p>	<p>地域行事や交流機会への参加を検討し、地域とのつながり強化に努める。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>利用者・家族が安心して在宅生活を継続できるよう看護・介護が連携し支援を実施している。運営推進会議では柔軟な対応方法について評価する意見があった。</p>	<p>今後も利用者・家族の意向を尊重しながら、質の向上に努める。</p>	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おお そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 経営理念、スローガンを掲示している。 医療ニーズの高い利用者は少ないが、安定した在宅生活を継続するため、リハビリやそれぞれの生活状況に応じて、看護・介護ケアを行っている。 ミーティングや会議等では、小さな気づきも積極的に報告され意見交換している。					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 「生活機能の維持回復」に関しては訪問・通いの場で自立支援を意識し自分できるところは自分でしていただくように職員間で周知徹底している。また楽しみな					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
		がら身体を動かせるよう室内外の散歩や とトランプ、塗り絵等様々な活動をご利 用者に提案している。「家族の負担軽減」 に関してはご家族の状況や負担を考えサ ービスの調整を行った。					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通 じて、各職員の中長期的な 育成計画などを作成してい る		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況につい て、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画 などを作成している場合は「よく できている」 ✓ 育成計画などを作成していない 場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機 会を育成計画等に基づいて		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常 業務以外での機会の確保」につい

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 研修 感染症や虐待予防等、研修計画に基づいて研修を実施している。またご利用者の現病を中心に医療研修も随時開催している。法人内外での研修に積極艇に参加した。					て、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提		○				✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	供等に反映させている	[具体的な状況・取組内容] 広報の方法等、助言いただいた事を実施 している。					を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くこと ができる就業環境の整備に 努めている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことので きる就業環境」の充足度を評価し ます ✓ 例えば、「職員の能力向上の支 援」、「精神的な負担の軽減のため の支援」、「労働時間への配慮」な どが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、 随時更新を行うとともに、 必要に応じて職員間で迅速 に共有できるよう工夫され ている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報の随時の更新」と「職員間 で迅速に共有するための工夫」の 2つの視点から、充足度を評価し ます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○				<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p><u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> 重要事項説明書において利用者の身体状況や病気に伴う様々な症状により危険性が伴う状況について明記し理解を得ている。訪問や送迎時に使用する車両にはドライブレコーダーが設置されている。</p>					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○				<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>
		<p><u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> 災害時、感染症発生時のBCPを作成し訓練を年2回実施している。「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などの作成はできている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいとい

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよ そ でき て い る	あまり でき て い ない	全く でき て い ない		
							えます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>ケアプランを作成し、目標達成に向けた計画に基づいて実施している。</p>					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>残存機能を生かし、これまでの生活の中の趣味や活動などを把握し機能訓練に生かしている。</p> <p>自立支援を大切にしながら計画作成をおこない、変化があれば計画を見直している。</p>					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏ま		○				<p>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	えた計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 転倒や誤嚥などのリスクがある場合は、家族とも共有理解を持ち、リスクを踏まえて計画を作成している。 病状の進行にも注意し、主治医の意見も聞きながら対応している。					評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○				✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
		いている。					握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 毎月の訪問看護報告書にて主治医に情報共有を行っている。					
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] 看護・介護職員における専門性を活かした役割分担はできている					
20	○ 利用者等の状況について、		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有お

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おお よ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている						よび対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> ミーティングでは積極的に気づきを共有しながら観察を強化している。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> ご利用者の現病を中心に医療研修を実施している。またケアする上で注意する点等情報共有が行われている。					
(4) 利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>〔具体的な状況・取組内容〕</u> パンフレットとは別に具体的なサービス内容を記載した冊子を使用し丁寧に説明させていただいている。料金シミュレーションを使用して利用料金を具体的に提					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
		示させていただいた。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている			○		<p>〔具体的な状況・取組内容〕</p> <p>ケアプランを説明しサインを頂いている。必要に応じてご家族には療養上で留意する点について分かりやすく書面にまとめてお渡ししている。</p>	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>〔具体的な状況・取組内容〕</p> <p>留置カテーテルの扱い方やインスリンの管理について訪問に丁寧に説明し、確認も行っている。</p>	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族						✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おお よ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	等)の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	[具体的な状況・取組内容] お元気だった頃に話しておられ事や本人様の気持ちを家族に伺いサービスに反映させている。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 本人の気持ちを大切にしつつ家族の介護状況等を踏まえて検討、相談している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している						<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報		○				✓ 「利用者の円滑な在宅生活への

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している						移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	る	個別ファイルに必要な情報を冊子としてまとめているが、全体をまとめた看護サマリーを作成、更新し、必要時に医療機関等へ連携できるようにしていく準備が必要と考える。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について		○				✓ 「誰でも見ることができる方法

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	て、誰でも見るができる ような方法での情報発信 が、迅速に行われている						での情報発信」と「迅速な情報発 信」の2つの視点から、充足度を 評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 運営推進会議の内容については、ミーティ ング等で連携し、端末とファイルにまとめ 共有できるようにしている。 ホームページにも公表している。					
33	○ サービスの概要や地域にお いて果たす役割等につい て、正しい理解を広めるた め、地域住民向けの積極的 な啓発活動が行われている			○			✓ 「積極的な啓発活動」について、 評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や 「地域説明会の実施」などの取組 が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的 とした活動等は除きます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 病院の地域連携室や居宅介護事業所、地 域に向けた見学会等を開催している。 美吉野園広報誌において掲載していただ き、地域へ発信している。					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介 護事業所の登録者以外を対				○		✓ 「指定訪問看護事業所の指定を 併せて受けている事業所」のみが

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく でき て い る	おおよ そ でき て い る	あまり でき て い ない	全く でき て い ない			
	象とした訪問看護を積極的に実施している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 現在は行っていない					対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します	
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ								
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 現在、吸引の対象者はいないが、今後のニーズにおいて喀痰吸引の依頼も受ける可能性もあり、法人にて特定行為研修中の職員もいる。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れるこ				○		✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	とができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>現在対象者はいない</u> <u>看護体制が整っていない</u>					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38			○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している						<p>充足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</p>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○				<p>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</p> <p>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</p>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に				○		<p>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およ そ できて いる	あまり できて いない	全く できてい ない		
	応じて課題提起や改善策の 提案等が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 地域参加ができていない 今後、地域活動への参加を計画している。					価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 家族については介護指導等実施し介護力を引きだせるような取り組みを行っている。 近隣住民には実施できていない	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されま

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよ そ でき て い る	あまり でき て い ない	全く でき て い ない		
						す ✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」	

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>訪問看護、介護計画、ケアプランに沿ってサービス提供をおこない、概ね達成できている。</p> <p>目標評価をおこない見直しを行っている。</p>		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>利用者、ご家族より笑顔で「ありがとう」という言葉をたくさんいただいている。</p> <p>前回の運営推進会議では24時間365日の</p>		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		体制において「安心感がある」という言葉を頂くことができた。		
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>⑤. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>看取りの希望の方へのケアを想定し準備していく。</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>